

本日、学位を授与された皆さん、所定の単位を取得された方々、誠におめでとうございます。あらためて、輝かしい未来へと旅立つ皆さんを心から言祝ぎいたします。

今般、突如出来した災禍に伴い、修了式を中止せざるを得ませんでした。学長として、修了生をはじめ、ご家族、保護者の方々に深くお詫び申し上げます。

大学院での学びは、学部とは異なり、既存の学問知に敬意をはらいながら、自身の収集した資料をもとに、設定した課題を分析、検証することにより、新たな知を創造するところにあります。江戸時代の国学者である賀茂真淵は、鎌倉時代、室町時代の源氏物語の研究成果をまとめた北村季吟の『湖月抄』に自身の考えを書き入れ、『源氏物語新釈』を著したといえます。先学の学問知を尊重しながら自説を醸成させていたのです。皆さんが紡ぎ出した学位論文、学術成果も、それぞれの研究分野の研究史をたどり、現在の研究状況を問い直し、自身の問題を据え直し、日々、推敲した賜であると思量いたします。今後、皆さんの学術成果が、学会へ問題提起をし、研究史に確かなる足跡を残すものとなるよう期待しています。

本年度、修了生総代となられた柴崎一孝氏の言葉に、「一心一意」に励み、これからも「君子本を務む。本立ちて道生ず」をもって学問の道に邁進するとの思いが示されていました。学長として、この言葉に込められた皆さんの気持ちを確かに受けとめました。

結びに、國學院大學大学院という学び舎から、皆さん一人ひとりが選び取った新たな道へ飛翔され、本学での学びがそれぞれの道で意義あるものとなることを祈念して、祝意の言葉といたします。

令和2年3月21日

國學院大學 学長 針本 正行